# 河川の水質は大丈夫か

## 基準値を上回る数値が出て改善が望まれる

神﨑　文男 議員

本町は畑面積が水田面積の3．1倍で、畑作地帯と言える。耕地率が41．1％であり、東串良町に次いで大隅地区で2位である。山が少ないということは、雨が降れば山からきれいな水が流れるが、畑では作物が吸収しなかった養分が流れる。川の汚染の原因はいろいろ考えられるが、水質の現状をどのように捉えているか。

### 基準値を超える地点がある

**町長**

毎年、8月と2月に持留川・田原川・菱田川・高尾川・天神川の河川、12か所で水質検査を行っている。悪臭等の発生に関するBOD（生物化学的酸素要求量）と、光の透過が妨げられて水中の植物の光合成に影響し、発育を阻害することがあるSS（浮遊物質）、し尿汚染の指標として使われる大腸菌群数の3つの項目を対象に12か所の橋から水採取を行い、基準値を超える地点が見受けられることは認識している。

### 田原川で硝酸性窒素が極めて高いが

**神﨑議員**

田原川の硝酸性窒素が高いところで62．5ppmで、平均でも47．56ppmである。基準値は10ppm以下であり極めて高い。2010年の鹿児島県保健センター所報に、田原川の水質汚濁原因等に関する調査の中で、「県唯一のC類型河川であり、水質改善が望まれる」とあるが、対策か、動きをしたか。

### 広報紙で結果を公表し、啓発を図っている

**町長**

基準値を上回る数値が出ており、改善が望まれることは承知している。対策として原因箇所の究明はしていないが、広報紙等で水質検査の結果を毎年公表し、啓発を図っている。

### 汚染対策は

**神﨑議員**

田原川はアンモニア窒素とリン濃度が高い値であり、原因として、家庭排水が考えられる。対策として、下水道や合併浄化槽の普及が良いと思うが、本町の下水道と合併浄化槽の普及率は50．4％である。今後どのように考えているか。

### 年間、100基程度を目標に進める

**町長**

平成24年度末現在、下水道の接続戸数は1581戸、接続率は92．1％である。接続率の更なる引き上げが重要である。下水道区域以外での排水処理が今後の課題であり、年間100基程度を目標に合併浄化槽も推進し、今後も続けていく。

### 皆で取り組むことは、できないか

**神﨑議員**

田原川の汚染状況は、県内でもワーストに近い位置である。天ぷら油は廃油として溜めて出す。残った油は吸収剤に吸わせ、排水溝に流さない。調理くず・残飯は資源として回収し、堆肥化して利用する。洗濯も風呂の残り湯を使用し、洗剤等は適量を守るようにし、家庭でできること、地域で取り組んでいくことで河川がきれいになると思うが、町全体でもっと啓発活動はできないか。町長の考えは。

### ハード面・ソフト面から対策を行う

**町長**

河川浄化対策は取り組むべき課題であると認識しており、合併浄化槽のハード面・啓発活動のソフト面、両面から対策を行う。

### 河川汚染に関する問い合わせは、何件あるか

**神﨑議員**

汚染の原因は、家庭等の生活系、事業所・工場などの工場系、畜産業に伴う畜産系、水産養殖業に伴う水産系、農業や林業の堆肥化に伴う自然系に分類され、それぞれに影響がある。河川汚染に関する件で、相談・苦情・問い合わせは、年に何件あるか。

### 河川関係の苦情は、年間3件である

**町長**

生活系については、住民環境課による分別回収の中に含まれている。工場系や水産系についても、それぞれの監督官庁において指導がなされていると認識している。畜産系や自然系については、農林振興課において、生産者組織の総会や研修会において畜産廃棄物の適正な処理をお願いしている。河川関係の相談・苦情等は昨年度3件あり、農林振興課は1件で、保健所・警察など関係機関と連携して処理にあたっている。

※C類型河川
生活環境の保全に係る水質環境基準のうち水生生物保全水質環境基準の水域類型